

指導力評価に関するワーキンググループの審議の概要について（経過報告）

本資料は、指導力評価に関するワーキンググループ（第1回、第2回、第3回、第4回）及び日本語教育小委員会（第47回、第48回）での議論を通して、指導力評価を検討するに当たっての当面の主な論点について、概ね了解された方向性を整理したものである。

今回の検討においては、指導力評価の対象を（1）学習者に対する直接的な日本語の指導に携わる者（以下「地域日本語教育指導者」という。）と（2）教室活動全体の企画や教室外の関係者とのやり取りなど直接的な日本語の指導以外の企画・連絡・調整等に携わる者（以下「地域日本語教育コーディネーター」という。）とし、（1）と（2）を合わせて実施者と称することとする。

なお、実施者、地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターはいずれも役割に対する名称であり、特定の勤務形態やポストにある者を示すものではない。

また、日本語教育小委員会で取りまとめた成果物については、以下の表に示した略称を用い、①～④の成果物をまとめて「カリキュラム案等」と称することとする。

	日本語教育小委員会で取りまとめた成果物の名称	略称
①	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について	カリキュラム案
②	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック	ガイドブック
③	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集	教材例集
④	「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について	能力評価

1. 評価の目的

- 外国人のニーズや地域の実情に応じ、日本語教育プログラムをカリキュラム案等を活用して実施する際に必要となる能力を明らかにし、これらについて評価を行い、実施者の能力の向上を図ることにより、外国人のニーズにより一層応えうる日本語教育プログラムの実施につなげることを目的とする。
- これは日本語教育小委員会では「生活者としての外国人」に対する日本語教育を推進するため、カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価の作成を順次計画的に行ってきたおり、指導力評価についてもその延長線上に位置付けて、全体として5つの成果物の活用を促進することが適切であると考えたからである。

2. 評価の観点及び基準（何を評価するか）

⇒ 別紙1参照

- 日本語教育プログラムをカリキュラム案等を活用して実施する際に必要となる能力について評価する。
- 評価は、日本語教育プログラムをカリキュラム案等を活用して実施する際、「PLAN（企画）－DO（実践）－CHECK（点検）－ACTION（改善）」の四つの段階それぞれに必要な能力について行う。ただし、知識や資質に関する評価は行わない。
- 評価は、段階を付けることにより行う（例えば「○」「△」「×」など3段階程度）。

3. 評価対象者（誰を評価するか）

- 評価対象者は、実施者（地域日本語教育指導者及び地域日本語教育コーディネーター）とする。
- ただし、実際に誰を評価するかは、その地域における日本語教育プログラムの実施形態や実施に関わる人の数や役割により異なるものである。

4. 評価者（誰が評価するか）及び評価の手続・方法

- 評価は、チェックリストによる評価結果をポートフォリオに記録するという形で行う自己評価を念頭に置く。
- ただし、実際にはその地域における日本語教育プログラムの実施形態や実施に関わる人の数や役割によって異なった活用（他者評価や学習者による評価）もあると考えられる。

5. 成果物のイメージ

⇒ 別紙2参照

- 今回検討している評価は、実施者の評価そのものよりも実施者の能力を確認し、成長につなげることを重視し、日本語教育プログラムを実施する際に必要となる能力を示したチェックリストを基に、ポートフォリオや研修の枠組みを作成し、人材育成の方向性を示す。

指導力評価に関するチェックリストの項目一覧(案)

【チェックリストに関する説明】

- ① 本資料は、実施者（地域日本語教育指導者及び地域日本語教育コーディネーター）に求められる能力について検討するため、「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」（平成23年3月、財団法人日本国際教育支援協会）に掲載されている「生活日本語の学習を支援する教室運営のためのチェックリスト（案）version 2」, 「生活者日本語の指導能力の評価に関する調査研究」（平成23年3月、公益社団法人国際日本語普及協会）の「指導者can-doリストA」及びガイドブックの「4 日本語教育プログラムの作成手順」を参考に作成したものである。
- ② 本資料は、日本語教育プログラムをカリキュラム案等を活用して実施する際、「PLAN（計画）-DO（実施）-CHECK（点検）-ACTION（改善）」の四つの段階それぞれに必要な能力をチェックリストとして示している。なお、内容については、今後更に修正等を加えていく必要がある。

【チェックリストの活用方法に関する説明】

- ① チェックリストで取り上げる項目は、それぞれの地域の日本語教育プログラムの実施形態や実施に関わる人や役割に合わせて選択することを想定している。
- ② なお、評価はチェックリストによる評価結果をポートフォリオに記録するという形で行う自己評価を念頭に置いている。

※1 本表においては、地域日本語教育指導者を指導者、地域日本語教育コーディネーターをコーディネーターと略称する。

※2 本表においては、コーディネーター、指導者以外に地域日本語教育プログラムの実施に協力する者を協力者と称する。

PLAN-DO- CHECK-ACTIONの別	
指導力評価に関するチェックリストの項目	
PLAN(企画)	
1. 域内の学習者の状況, 生活課題, 地域のリソース(人的・物的資源)等の把握	
1) 対象とする学習者の属性や数の把握	(1) 対象とする学習者に関する情報を収集している
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の属性（年齢，職業，学習履歴など）を把握している ・ 学習者の数を把握している ・ 学習者の生活環境を把握している ・ 学習者の日常の使用言語と使用場面を把握している ・ 学習者が日本語のやり取りを求められる場面を把握している ・ 学習者が今何ができて何ができないかを把握している ・ 学習者が日本語学習に割くことのできる時間・時間帯を把握している ・ 学習者の学習環境（辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか，日本語学習に協力してくれる人はいるかなど）を把握している
2) 学習者の生活課題の把握	(2) 学習者の生活課題に関する情報を収集している
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者が生活の中で「今すぐできないと困る」課題を把握している ・ 学習者が生活の中で「今できるようになりたい」課題を把握している ・ 学習者が生活の中で「今後できるようになりたい」課題を把握している ・ 学習者の意向や要望を聞く仕組みを作っている ・ 学習者が学習活動に求めるものや目的，目標等を把握している

- ・ 学習者から学習に関する相談を定期的に受ける仕組みを作っている

3) 地域のリソース(人的・物的資源)の把握

(3) コーディネーターの配置と役割が適切である

- ・ コーディネーターが誰か明確にしている
- ・ コーディネーターの役割がコーディネーター、指導者、協力者の間で理解されている
- ・ コーディネーターと指導者の間で十分にコミュニケーションが取れている

(4) コーディネーター本人の姿勢が適切である

- ・ 世界情勢、外国人問題、日本語教育等に関わる情報を広く収集し、学び続ける姿勢を持っている
- ・ 様々な視点から外国人問題を見ている
- ・ 教室をコミュニティ(小さな社会)として育てるという視点を持っている
- ・ 日々の活動を「Plan- Do - Check - Action」の視点で観察、分析、評価をしている
- ・ 指導者、協力者や他のコーディネーターと密に連携を取っている
- ・ 地域住民や大学教員等の協力者と協働して教室活動を行っている

(5) 指導者の育成が適切である

- ・ 指導者を育成する仕組みを作っている
- ・ 日本語教室の理念を理解し、教室に主体的に関わろうとする指導者を育成している
- ・ 指導者に不足しているものを見極め、それを補うための研修を企画し、実施している
- ・ 地域の人材育成に関する講座やセミナーの情報を集め、適切なものを指導者に紹介している
- ・ 学習者の一部が指導者及び協力者として育つよう支えている
- ・ 活動を通して、指導者の意識の変容を促し、学習者と共に学ぶという気持ちや姿勢を育成している
- ・ 多様な観点による言語教育や他分野(社会福祉など)の理論の実践に関心を持ち、学ぶ姿勢を持っている

(6) 指導者の配置と役割が適切である

- ・ 日本語教育について経験・知識・能力がある指導者を確保している
- ・ 外国人支援について経験・知識・能力がある指導者を確保している
- ・ 指導者に求めることが明確である
- ・ その日の活動を担当する指導者が決まっている

(7) 日本語教室のために適切な場所がある

- ・ 日本語教育を行う場所を確保している
- ・ 学習者やその他の人が集まりやすいように場所の利便性を考慮している
- ・ 移動手段を持たない学習者が通いやすいように工夫をしている
- ・ 活動場所では幼児や年少者、高齢者等の安全性に配慮している

(8) 日本語教室を行うための適切な環境を準備している

- ・ 学習者が通いやすい時間と曜日に日本語教室を開設している
- ・ 日本語教室を行う場所には関係者以外のグループも別の活動を行っているなど、他のコミュニティと接する機会を設けている
- ・ 使い勝手(大きさや、移動性など)のよいいすや机を用意している
- ・ 活動を行うのに十分な広さを確保している
- ・ 必要に応じて、ホワイトボードやオーディオ機器等の教具・機器を確保できるようになっている
- ・ 必要に応じて、PC環境やインターネット環境を確保できるようになっている

(9) 日本語教室をより良くするための地域の様々な情報を収集している

- ・ 地域における日本語教育を専門としている協力者を把握している
- ・ コーディネーターや指導者以外の外部の協力者を確保している
- ・ 活動に協力してくれる組織を確保している

(10) 教材、情報を準備している

- ・ 地域での生活に必要な多言語情報やパンフレット、案内図、ちらし、地図等を用意している
- ・ テーマにふさわしいビデオを準備し、活用している
- ・ 地域の公共サービスの情報を収集している

- ・地域の行事の情報を収集している
- ・生活に必要な情報を収集している

2. 日本語教室の目的や設置場所等についての検討

4) 日本語教室の目的の設定

(11) カリキュラム(中期的な学習計画)の目的が適切である

- ・学習目標を明文化している
- ・日本語教育プログラムの全体像を実施者の間で共有できるように明文化している

5) 学習者のニーズ、地域のリソースに基づいた教室の設置

(12) 教室の企画、立ち上げを準備している

- ・地域の学習者や既存の日本語教室の状況を把握している
- ・地域の実情に合わせた日本語教育プログラムを企画し、行政や行政関係の機関等に提案している
- ・行政や行政の関係機関、他の日本語教育の機関・団体におけるコーディネーターと協働して教室を立ち上げる用意がある

(13) 活動の現状を共有・活用している

- ・活動の理念や目的等を共有している
- ・学習者の基礎的な情報や学習の進捗情報を共有している
- ・教室の場所や時間、学習内容について定期的の実施者の間で検討している

(14) 先行する事例を共有・活用している

- ・先行する他地域の事例や、自分たちの過去の取り組みを何らかの形でまとめている
- ・まとめられた情報を使いやすいように分類・整理し、一括管理している
- ・教室活動の参考になる資料を揃えている
- ・インターネット等を活用して、教室活動の参考資料を探せるよう、情報環境を整えている

(15) 活動の意義や内容を発信している

- ・日本語教育プログラムの内容を広く一般に情報発信している
- ・日本語教育プログラムの内容が学習者に届きやすいように、情報発信の方法を工夫している

(16) 関係機関や地域と連携している

- ・教室の企画、立ち上げ、運営の際に関係する様々な機関とネットワークを構築し、維持している
- ・地域住民が教室に関われるようにしている
- ・日本語教室の必要性や活動内容を広く地域に発信している

3. 具体的な日本語教育プログラムの作成

6) 学習内容、学習順序、学習時間、指導者・協力者、教室活動についての検討

(17) カリキュラム(中期的な学習計画)の内容が適切である

- ・カリキュラム案等を活用し、地域の実情や学習者のニーズに合わせ、必要な事項を優先させる形で学習内容を選択している
- ・カリキュラム案等を参照しながら、学習者と指導者が共通に持つ課題を活動のテーマに取り入れている
- ・必要に応じて学習期間に区切りを付け、短期的・中期的な目標を立てるようにしている
- ・学習者のライフステージを考慮して、活動をデザインしている

(18) カリキュラム(中期的な学習計画)の教室活動が適切である

- ・学習者の生活上の課題を把握し、妥当なニーズに設定し直して、教室活動を行っている
- ・コーディネーターと指導者の間で、日本語指導や学習活動の方針、方法を明確にしている
- ・教室活動の実施条件に合わせて、日本語の学習を促進する活動をデザインしている
- ・学習者の日本語力を考慮して活動をデザインしている
- ・デザインした活動を実践するための環境を整えている
- ・1回ごとの活動を組み立てている

(19) カリキュラム(中期的な学習計画)の時間設定が適切である

- ・地域や日本語教室、学習者の状況に合わせて時間設定をしている

(20) カリキュラム(中期的な学習計画)の学習順序が適切である

- ・学習者の状況や背景、ニーズを踏まえた学習順序を設定している

(21) 毎回の活動計画や学習計画が適切である
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の学習内容を何らかの形で明文化している ・ 学習者にとって興味深い内容になるよう工夫している
(22) 教材や教具を適切に活用している
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の学習目的を達成するために効果的な教材や教具等を用意している ・ 学習に市販のものを使用する際には、著作物の取り扱いを法律に沿って行っている ・ 学習者の生活課題や教室活動の目標に即した教材を準備し活用している ・ 教室活動のねらいに即した教材を準備し活用している ・ 教室活動の前に必要な準備や関連情報の確認をして教室活動に活用している
(23) 教室活動を準備している
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の活動内容や学習内容を把握している ・ 今回の活動内容や学習目的を明確にしている ・ 今回の活動や学習に関連する教材や教具・資料を準備している ・ 教室活動の流れや時間配分を考えている ・ 計画した内容や流れが予定通りにいかなかったときの代案を考えている
(24) 教室環境を整えている
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者数や活動・学習内容に合わせて教室環境を準備している ・ 必要な教具や資料など、実施者間で共通で使うものを使いやすい形で整理・保管している ・ 必要な機器（PCやテレビ、DVD、オーディオ）を管理・保管している ・ 必要な機器（PCやテレビ、DVD、オーディオ）の使い方を、実施者それぞれが理解している

DO(実施)

4. 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

7) 教室の運営・育成

(25) 教室の運営・育成を適切に行っている
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作っている ・ 教室運営や活動に関する学習者の意見、問題意識を吸い上げている ・ 教室の現状を適切に把握、評価し、問題を認識している ・ 教室に生じた問題に適切に対応している ・ 教室の新たな課題、目標を設定している ・ 新たな学習者を教室外から集めている ・ 教室運営に必要な協力者を集めている ・ 適性や志向、能力をふまえて、協力者の教室活動での役割を適切に与えている ・ 教室設立の理念(教室を作った目的、地域の中での教室の役割、それらを踏まえた活動方法等)を分かりやすく言語化し、指導者・学習者全員に伝え、共有している ・ 学習者相互の人間関係を調整し、学習者同士が関係性を築いていけるような教室を作っている

8) カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施

(26) カリキュラム案を理解している
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標を十分に理解して教室活動を行っている ・ カリキュラム案等の内容を十分に理解し、必要に応じて活用している
(27) 学習者の状況やニーズを踏まえた活動を実施している
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の状況や日本語レベル、ニーズを考慮した対話活動を行っている ・ 対話などの活動をしながら学習者の日本語のレベルやニーズを把握している ・ 学習者が生活の中で必要性を感じている生活上の行為を選び、教室活動で取り上げている ・ 学習者のニーズや日本語レベルに沿って、教室活動の目標や活動のねらいを設定している
(28) 課題達成型の活動を実施している
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の目的に合わせて、現実の課題の中から適切な課題を選んでいる ・ 活動の環境に合わせて、現実の課題を活動に適したサイズに切り取っている ・ 活動の目的と環境に合わせて、活動の手順を組み立てている

- ・ 学習者が課題の達成を実感したり、達成できなかった場合の原因を理解したりできるように、教室活動を展開している

(29) 行動・体験中心の活動を実施している

- ・ 学習者が実際のコミュニケーション活動を行う、行動・体験中心の教室活動を展開している
- ・ 学習者が日本語を使って生活できるようになるだけでなく、更に地域住民等との人間関係が広がっていくように行動・体験中心の活動を工夫している
- ・ 体験活動や実物、イラスト、写真などを活用したり、協力者の助けを得るなどし、学習者が体験的に実際のコミュニケーション活動が学べるよう工夫している

(30) 対話中心の活動を実施している

- ・ 学習者と指導者に対話活動の目的を理解させている
- ・ 活動が行われる教室の事情に合わせて、適切な話題を提供している
- ・ 指導者・協力者と学習者の間で双方向の発話を促している
- ・ 参加者が話しやすい雰囲気を作っている
- ・ 学習者の日本語力に合わせて適切な話題を提供している
- ・ 日本語力の不足のため活動が円滑に進まないとき、適切な支援をしている
- ・ 日本社会における日常生活の規範を学ぶことが学習者に対する規範の押し付けとならないような配慮をしている
- ・ 学習者に十分話させ、一方的な説明をしていない
- ・ 教室の雰囲気が活発で、楽しい教室活動を展開している
- ・ 学習者間や学習者と地域住民との間で相互理解が深まることを目指して教室活動を行っている

(31) 専門家や地域住民と協働している

- ・ 学習者からの質問が分からなかった場合、自ら調べたり、日本語教育を専門とする協力者の助言を受け解決を図っている
- ・ 必要な情報や、不明なことは、自ら調べたり、その分野に詳しい協力者の助言を受け解決を図っている
- ・ 学習者から複雑かつ深刻な相談を受けた場合、行政の相談窓口等につないでいる
- ・ 地域の日本人住民に対して、機会をとらえて、地域の外国人や多文化理解を深める事業を企画、実施している
- ・ 教室活動にあたって、地域住民や学習者と母語が同じでかつ滞在時間が長く、日本の生活に詳しい人の協力や参加を得て、より具体的で効果的な教室活動を展開している
- ・ 学習者が社会とのつながりが深まるよう学習活動の工夫をしている
- ・ 学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した学習活動を行っている

(32) 社会・文化的文脈を重視している

- ・ 生活上の行為を行う上で必要な社会・文化的知識をカリキュラム案の社会・文化的情報や、地域の多言語情報などを活用しながら与えている
- ・ 学習者間や指導者・協力者等との間で互いの社会や文化の理解が深まるような対話活動を行っている
- ・ 学習者が自分に関することや背景、文化を地域住民側に積極的に伝えることができるような雰囲気作りや活動の工夫をしている
- ・ 学習者の生活場面と密着したコミュニケーション活動を展開している

(33) 学習者の主体性を重視している

- ・ 学習者と指導者、双方が対等な立場で互いの社会、文化について学べるように活動を工夫している
- ・ 学習者の持つ興味、関心、学習スタイル等、多様な側面に配慮した活動を行っている

(34) 地域・学習者に応じた教育内容と教材の選択・工夫を行っている

- ・ 地域の実情や学習者の状況に合わせて教材例集や既存の教材を活用したり、教材を工夫、作成している

- ・テーマによっては、そのテーマに詳しい地域住民を教室に招いたり、学習者と母語が同じ人など協力者を教室に招いたり、外に出て直接行動・体験するなど工夫している
- ・必要に応じて地域での生活に必要な多言語情報やちらし、パンフレット、地図等を活用している

9) 実施の記録・評価

(35) 日々の記録を付けている

- ・活動や学習に関する記録を残している
- ・活動中・学習中の学習者の様子を記録している
- ・学習目標がどのくらい達成できたか把握し、記録している
- ・毎回の教室活動の成果と次回への課題を記録している

(36) 日々の記録を共有している

- ・各学習者の様子など、個別の記録を実施者間で共有している
- ・学習者のプライバシーに配慮している
- ・活動の工夫をコーディネーターや指導者間で共有している
- ・指導者間で、建設的に意見を出し合える機会を設けている
- ・コーディネーターと指導者が気軽に相談できる機会を設けている
- ・学習者や指導者間、コーディネーター等の意見に基づき、活動を工夫している

(37) 日々の記録を整理し、まとめている

- ・日々の活動や学習の記録を、分類整理して蓄積し活用に備えている
- ・過去の取り組みを資料にまとめている

(38) 評価をしている

- ・日本語学習ポートフォリオ（日本語能力評価）の「学習の記録」などを参考にして、学習者と毎日の学習を振り返っている
- ・日本語学習ポートフォリオの「社会生活の記録」等を参考にし、学習者の背景や経験を踏まえた活動を企画、実施している
- ・カリキュラム案や日本語学習ポートフォリオの「能力記述の一覧」等を参考にし、活動の具体的な達成目標を踏まえて、指導している

CHECK(点検)

5. プログラムの見直し

10) 状況の把握・分析

(39) 学習支援や教室実施時の状況を把握している

- ・期間中に生じた活動や教室の問題を把握している
- ・期間を通した学習者の変化を把握している
- ・期間を通した指導者・協力者の変化を把握している
- ・期間中の教室開催場所や開催時間について把握している
- ・活動のやり方やカリキュラム・教材の運用の状況を把握している

(40) 関係者の声を収集している

- ・学習者・指導者の満足度や要望を把握し、実施者間で情報共有をしている

(41) 当初の計画どおりに実施できたことと、途中で計画を変更したことについて把握している

- ・計画どおりに実施できたことを把握している
- ・計画どおりに実施できなかったことを把握している
- ・コース途中の計画変更によるプラスの影響とマイナスの影響を把握している

(42) 具体的な実施状況を分析している

- ・コース管理・運営上の課題を分析している
- ・活動のやり方や内容、方法の現状と課題を発見・分析している
- ・毎回の個別の学習活動を分析して、活動の善し悪しを自己評価している
- ・日本語教室の課題について分析方法を提供してくれる協力者を確保している

(43) 一定期間の活動の成果を客観的な視点で分析している

- ・活動に関する問題の原因を分析するために、様々な見方から考えようとしている

- 自分たちの活動や日本語教育の社会的意義を、意見・感想・コメントなどを分かりやすくまとめて第三者に伝えられるようにしている
- 自分たちの活動や日本語教育の社会的意義を、数字やグラフ等を利用して分かりやすく第三者に伝えられるようにしている

(44) 分析結果を適切に解釈している

- 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかを実施者の間で議論する機会を設けている
- 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかをアドバイスしてもらうために協力者の協力を得ている
- 分析結果を適切に解釈するために批判的かつ建設的に意見を交換している

(45) 改善活動を円滑に行うために分析・解釈結果を整理している

- 分析や解釈の結果を分かりやすく整理している
- 分析や解釈の結果を共有する仕組みを作っている

ACTION(改善)

6. 日本語教育プログラムの改善

11) 日本語教育プログラムの改善

(46) 改善計画を検討している

- コーディネーターと指導者が改善計画を考える機会を設けている
- 何を改善すれば問題が解決できるかを理解している
- 複数の解決策を考えている
- 改善計画に学習者の声を反映している
- 効果的な改善活動を行うため、役割分担や今後の計画を明確にしている

(47) 改善活動を実施している

- 実施者の間で役割分担・協力して改善活動をしている
- 実施者が改善活動に素早く取り組むための環境を整えている
- 改善活動を記録する仕組みがある

指導力評価についての検討結果の最終的な成果物について(案)

※成果物として、次の①～③を併せもつものを作成する予定である。

最終的な成果物の案	作成に当たっての留意点	検討事項
<p>①チェックシート例</p> <ul style="list-style-type: none"> 別紙1「指導力評価に関するチェックリストの項目一覧(案)」のチェックリストに評価結果を記載する欄を設けるなどして、チェックシートを作成する。評価は段階を付けることにより行う(例えば「○」「△」「×」など3段階程度)。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストで取り上げる項目は、それぞれの地域の日本語教育プログラムの実施形態や実施に関わる人や役割に合わせて選択するものであるということを明記する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には別紙1「指導力評価に関するチェックリストの項目一覧(案)」をベースとするが、別紙1にどういった手を加えるのかということについて検討が必要。 チェックリストを基に、地域日本語教育指導者、地域日本語教育コーディネーターの別に、典型的だと思われるチェックシートを作成する。
<p>②ポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> チェックシートによる評価結果を記録するポートフォリオを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の根拠(「○」「△」「×」を付けた理由)が後から確認できるような様式とする。 指導者の成長が把握できるように、評価の変化を時系列的に追えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成要素としてどういったものを含むのかということについて検討が必要。 ポートフォリオを作成する単位期間、期待される活用方法について言及するかどうかについて検討が必要。
<p>③研修の枠組み</p> <ul style="list-style-type: none"> チェックリストを基に、研修の枠組みを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の枠組みについては、地域日本語教育指導者と地域日本語教育コーディネーターの別に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストの細かな項目からいかに研修の枠組みを作成するか検討が必要。また、研修の枠組みをどの程度の細かさで示すのか検討が必要。 既に文化庁で実施している「地域日本語教育コーディネーター研修」と整合性を取ることが必要。